

小型化、デジタルで雑音遮断、色つき…

進化する

補聴器

補聴器に続々、新機種が登場している。ハイテク化で小さくなったり、従来の隠す方式からファッショニ性を持たせたり、手術で頭に埋め込む最新型も。最新の補聴器事情を探った。

従来、イヤホンと本体が別々だった補聴器は、一体化した耳かけ形が登場。さらにイヤホン自体に集音機能を持たせ、耳の穴に差し込む耳穴形（挿耳形）と、小型化が進んでいる。耳穴形は、機種によってはオーダーメードできる。

各機種とも音を拾って增幅するアナログ方式から、特定の音を遮断し聞きたい

（荻野貴生）

音だけを処理するデジタル方式が主流になっている。

アナログ式は、静かな室内ならよく聞こえても、外では風切り音や自動車の騒音で人の会話が聞こえにくくなることがある。デジタル式だと、雑音抑制機能（ノイ

ズリダクション）がついている機種なら、これらの不要な音を遮断する。

さらに自動環境認識システムの機能があれば、静かに最も聞きやすい状態を自動的に判断する。携帯電話を使つた時に、雑音をカットするタイプもある。

補聴器は精密機器のため見せるのが売りの耳かけ型が、今年二月に発売された。耳かけ部分の色が十三色で、自分の声がこもらずに聞こえる。補聴器販売道内

るようになつた。

一体化で小さくなつた背景には、補聴器を使ってい

る。手術でチタン製のボルトを耳の後ろに埋め込み、これに集音機を付けるだけ。音の振動を頭蓋骨経由で内耳に伝導させる。

北大病院客員臨床医で、かしわむら耳鼻咽喉科クリニック（札幌市東区）の柏村正明院長は「ハイテクで高価な補聴器が、聞こえにくいすべての人には必ずしも必要というわけではない。

難聴の種類によっては、補聴器を使っても効果のない場合がある」と指摘。「耳あかが詰まつて聞こえにくくなっている高齢者も多い。必ず医師の診断を受け、一定期間試聴させてくれる見込みだが、難聴の種類によっては適応外になる。

市販の補聴器の価格は、二万円台から五十万円以上

に汗のため故障することも多かつたが、最近は防水型もあり、入浴や水泳に使えます。

①彩り鮮やかな耳かけタイプの補聴器（左耳の穴に差し込む耳穴形）

最大手の岩崎電子（札幌）の中津政典・聴能営業部長は「髪の毛の色に合わせて

できる。道内では北大病院耳鼻咽喉科で三人が治療中。数年後には実用化される見込みだが、難聴の種類によっては適応外になる。

市販の補聴器の価格は、二万円台から五十万円以上

と幅広い。箱形は安いが種類が少なく運動には不向き。耳掛け形や耳穴形は小さいけれど高価で、音声出力が弱く、操作性に難があり、耳あかが詰まりやすいものもある。

一方で、「使うなら、おしゃれに」という向きに、耳かけ部分の色が十三色で、自分の声がこもらずに聞こえる。補聴器販売道内

